

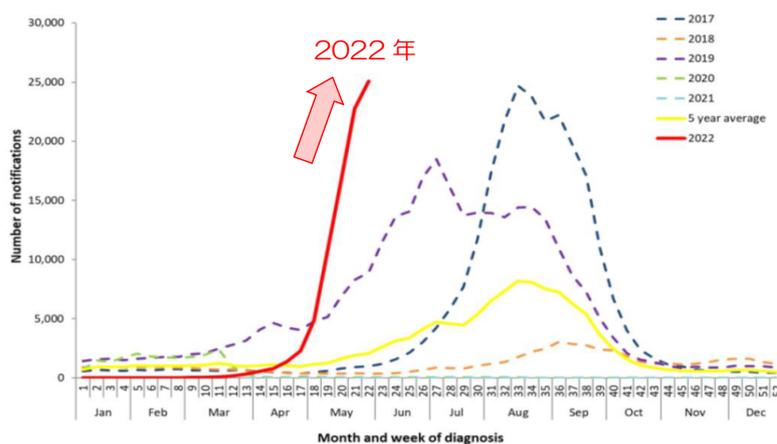
皆さんこんにちは、感染管理認定看護師の本間です。日頃より感染対策にご協力いただきありがとうございます。今回は冬季に注目の「ツインデミック」についてお話させていただきたいと思います。



感染管理認定看護師：本間 功武

新型コロナウイルス感染症第7波がようやく落ち着き、ひと段落…と息をつく暇もなく3年間息をひそめていた季節性インフルエンザの流行も懸念される声が聞かれるようになりました。また、いまだ未知なる感染症である新型コロナウイルス感染症の再流行の可能性も考えられます。この2つのウイルス感染症が時期を同じくして流行する可能性を懸念して「ツインデミック」という造語が知られるようになりました（※同時に罹患するという意味ではありません）。理由として、①新型コロナウイルス感染症に関連した渡航やマスク着用推奨など規制が緩和・解除された国が多いことや、②南半球のオーストラリアでインフルエンザが流行したこと、③コロナが流行してからインフルエンザの流行を認めなかったことによる免疫力の低下から、特に免疫の低い高齢者や乳幼児が最も危険にさらされている可能性がある」と英国の国民保健サービス（NHS）や米国の疾病管理予防センター（CDC）、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードにおいて懸念されています。

オーストラリアにおけるインフルエンザ検出数（2017年1月1日～2022年6月5日）



- インフルエンザの検出数は、2022年4月中旬から過去5年平均を上回っている。
- 5～19歳、5歳未満の子供で検出率が高い。
- 検出されたインフルエンザのうち90%がA型で、10%は型別不明。
- A型インフルエンザの内訳
 - H3N2：4.6%
 - H1N1pdm09：0.9%
 - サブタイプ不明：94.5%



Australian Influenza Surveillance Report - No 05 - fortnight ending 05 June 2022
<https://www1.health.gov.au/internet/main/publishing.nsf/Content/ozflu-surveil-no05-22.htm>

日本においても昨年、国立感染症研究所から例年最も罹患者が多いインフルエンザ A 型「H1N1」の抗体保有率が0-4歳の群、30-59歳の群、70歳以上の群で25%以下と低い抗体保有率であったと報告がありました（インフルエンザ抗体保有状況 2021年度速報第2報 10都道府県 2037名からの調査データより）。

このことから罹患リスクの高い乳幼児や高齢者のワクチン接種も重要ですが、罹患後に伝播させてしまう可能性のある年代にもワクチン接種は重要です。新型コロナウイルスワクチンと同様に、みんなが接種して効果を発揮するのがワクチンです。新型コロナウイルス感染症も季節性インフルエンザウイルス感染症も基本的な感染対策ができていれば感染拡大はしないと考えますので、引き続き皆さん一人ひとりの良識ある行動に心がけていただきたいと思います。

